

国 語

注 意

- 1 問題は **1** から **5** までで、12 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は五〇分で、終わりは午前九時五〇分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙にHB又はBの鉛筆（シャープペンシルも可）を使って明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい。**
- 5 答えは特別の指示のあるもののほかは、各問のA・イ・ウ・エのうちから、最も適切なものをそれぞれ一つずつ選んで、その記号の ○ の中を正確に塗りつぶしなさい。
- 6 答えを記述する問題については、解答用紙の決められた欄からはみ出さないように書きなさい。
- 7 答えを直すときは、きれいに消してから、消しくずを残さないようにして、新しい答えを書きなさい。
- 8 **受検番号**を解答用紙の決められた欄に書き、その数字の ○ の中を正確に塗りつぶしなさい。
- 9 解答用紙は、汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

1

次の各文の——を付けた漢字の読みがなを書け。

- (1) 役者の真に迫った演技が喝采を浴びる。
- (2) 教室から朗らかな笑い声が聞こえてくる。
- (3) 新緑の溪谷を眺めながら川下りを楽しむ。
- (4) キンモクセイの香りが漂う公園を散策する。
- (5) 著名な画家の生誕を記念する展覧会が催される。

2

次の各文の——を付けたかたかなの部分に当たる漢字を楷書で書け。

- (1) 古都を巡る計画をメンミツに立てる。
- (2) 道路をカクチョウとして渋滞を解消する。
- (3) 幼い子が公園のテツボウにぶら下がって遊ぶ。
- (4) 吹奏楽部の定期演奏会が盛況のうちに幕を下ろす。
- (5) 日ごとに秋が深まり、各地から紅葉の便りがトドク。

3

次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。（*印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕がある。）

東北出身の馬淵^{まぶち}は、妻の菊枝^{きくえ}と社会人である長女の珠子^{たまこ}、次女の志穂^{しほ}、大学生である三女の七重^{ななえ}と東京で暮らしている。ある晩、馬淵は家族を集め、カセット・テープにたまたま録音されていた、今は亡くなっている馬淵の母と七重との会話について話している。七重は、祖母との会話は十年前の春のことではないかと言った。

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾 申請中

(三浦哲郎「燈火」による)

〔注〕 姉——東北で母と暮らす馬淵の姉。

〔問1〕⁽¹⁾ 何日かすると、馬淵には馴染^{なじ}みの深い郷里の産物を土産に、母がいそいそとやってくる。とあるが、この表現から読み取れる母

の様子として最も適切なのは、次のうちではどれか。

- ア 思ったより早く孫の家に呼ばれたため、旅行の準備は簡単に済まし、家にあった息子のよく知るものを土産にして慌てて上京してくる様子。
- イ 体調が悪く孫に会えるか不安だったが、旅行ができるくらいにまで回復し、息子にとってなつかしい品を持って喜んで上京してくる様子。
- ウ 急に孫に会いたいと言ったが、旅費まで用意してもらえたので、恐縮しつつも息子の好物を土産にしてうれしそうに上京してくる様子。
- エ 孫の顔を見ることができず元気を失っていたが、孫に会えることになり、息子の慣れ親しんだ品を持って心躍らせながら上京してくる様子。

〔問2〕「……そうでした、お父さん？」と長女が首をかしげながら馬淵に訊いた。(2)

淵に訊いた。とあるが、「長女が首をかしげながら馬淵に訊いた」わけとして最も適切なものは、次のうちではどれか。

ア 白木蓮の名前を最後まで憶えることができなかった祖母を笑って話す妹の姿が腹立たしく、父にたしなめてもらおうと考えたから。

イ 祖母は白木蓮が好きだったのに名前を憶えることができなかったという妹の話を信じられず、父に事実を確かめようと考えたから。

ウ 白木蓮の名前を祖母はそもそも憶えるつもりがなかったという妹の指摘に疑問を覚え、父に本当のことを話してもらおうと考えたから。

エ 祖母の思い出が曖昧になっている妹をかわいそうに思い、実は祖母が花の名前を憶えていたことを父から説明させようと考えたから。

〔問3〕馬淵は、遠くなった記憶を引き寄せながらいった。とあるが、この表現について述べたものとして最も適切なものは、次のうちではどれか。

ア 辛夷を買ったときの状況を話すうちに徐々に記憶が鮮明になっていく馬淵の様子を、順序立てて説明的に描くことで表現している。

イ 家族と話しながら植木市に行った頃の思い出にふけっている馬淵の様子を、感覚的な言葉を用いて鮮やかに描くことで表現している。

ウ 当時の様子を思い出しながら自分自身でも確かめるように家族に話す馬淵の様子を、たとえを用いて巧みに描くことで表現している。

エ 家族に話している現在の馬淵の様子と植木市に行った当時の馬淵の様子とを、対比を用いて丁寧に描き分けることで表現している。

〔問4〕この樹は、辛夷ではないが、人間なら血液にも等しい辛夷の樹液が流れている。とあるが、この表現から読み取れる馬淵の様子として最も適切なものは、次のうちではどれか。(4)

ア 辛夷を買えないことが心残りではあったが、辛夷に似た花が咲く白木蓮ならば母は好きになると考え、持ち帰ることを決心している様子。

イ 辛夷でないのは残念だが、この白木蓮は本質的な部分では辛夷と同じ特別な木だと思ひ、庭に植えるのにふさわしいと確信している様子。

ウ 辛夷が庭木に向かないということは知らなかったが、育てやすい白木蓮を紹介してくれたので、職人風の男の優しさに感謝している様子。

エ 辛夷に接ぎ木した白木蓮を、職人風の男から矢継ぎ早に勧められて断れなくなり、買うための理由を考えて自分を納得させている様子。

〔問5〕「ええ、ほつぽつ咲きはじめたようです。」とあるが、このときの馬淵の気持ちに最も近いのは、次のうちではどれか。(5)

ア 花は咲いたかと懸命に確かめようとする母の言葉を聞いて、毎年孫と眺めていた田打ち桜をもう一度見たいと強く望んでいるのだと思ひ、せめて花だけでも採ってきて見せてやればよかったと悔やむ気持ち。

イ 花は咲いたかと無理をして尋ねる母の言葉を聞いて、部屋にいて季節が感じられず田打ち桜の様子を知りたいのだと考え、家を出る前に枝の手入れをして花の咲き具合を見ればよかったと反省する気持ち。

ウ 花は咲いたかとおぼやく母の言葉を聞いて、病気のために田打ち桜を見に行くことはできないだろうと弱気になっていると感じ、母を励まして元気にするために次は花を持ってこようと意気込む気持ち。

エ 花は咲いたかと控えめに話す母の言葉を聞いて、互いに好きな田打ち桜の様子を聞くことで会話を弾ませたいと考えていることに気付き、花の様子が分からず適当に答えることを後ろめたく思う気持ち。

エ 花は咲いたかとおぼやく母の言葉を聞いて、病気のために田打ち桜を見に行くことはできないだろうと弱気になっていると感じ、母を励まして元気にするために次は花を持ってこようと意気込む気持ち。

エ 花は咲いたかとおぼやく母の言葉を聞いて、互いに好きな田打ち桜の様子を聞くことで会話を弾ませたいと考えていることに気付き、花の様子が分からず適当に答えることを後ろめたく思う気持ち。

4

次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。（*印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕がある。）

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾 申請中

(齋藤亜矢「ヒトはなぜ絵を描くのか」による)

〔注〕

多義図形——二種類以上の異なる見え方をもつ絵や図形。
釉薬ゆうやく——陶磁器の表面に施すガラス質の溶液。

〔問1〕⁽¹⁾ 知っているモノについての新たな概念が加わる、新たに「知る」

喜びだ。とあるが、「新たに『知る』喜び」とはどういうことか。

次のうちから最も適切なものを選べ。

- ア 作者のフィルターを通して現実には何かを加えたり排除したりした絵と出会うことで、美しさを引き立てる技法に驚き、感心するということ。
- イ 見たことのないモノを作者のフィルターを通した絵で初めて見て、現実の世界の広さを認識するとともに、異国の生活に夢を抱くということ。
- ウ 作者のフィルターを通して抽出された絵や写真から、有り触れた風景やモノに対する自分の考えを超えた一面に気付き、感動するということ。
- エ 美しい自然を見ることで、作者のフィルターを通して絵や写真は現実を超えられないと改めて認識し、自然の偉大さを実感するということ。
- 〔問2〕⁽²⁾ そこで既存の概念を揺るがし、概念が更新される過程が、わたしたちの心に深い印象を刻み付けるのだろう。とあるが、筆者がこのように述べたのはなぜか。次のうちから最も適切なものを選べ。
- ア 既存の概念をくつがえすような表現に驚いたり戸惑ったりすること
で、心に広さや深さが生まれて大きな影響が与えられると考えたから。
- イ 画材等の発明により新たな表現が開発されることで、既存の概念を逸脱したようなモノも表現できるようになり衝撃を受けると考えたから。
- ウ 美の強調やありえないモノの表現など既存の概念を超える過剰な表現が増すことで、トップダウン的に作品を見るようになると考えたから。
- エ 既存の概念をモチーフに描いた同じ作者の作品から異なった印象を受けることで、作者の技術に違和感や不安定感を覚えると考えたから。

〔問3〕 この文章の構成における第十二段の役割を説明したものと
最も適切なものは、次のうちではどれか。

ア それまでに述べてきたヒトの記号的な見方を受けて、体験を基にし
た複数の事例を列挙することで論旨を分かりやすくしている。

イ それまでに述べてきたヒトの記号的な見方について、筆者の経験に
基づいた具体的な事例を挙げることで論の展開を図っている。

ウ それまでに述べてきたヒトの記号的な見方に関して、それに反対す
る立場から対照的な事例を示すことで別の見解を提示している。

エ それまでに述べてきたヒトの記号的な見方に対して、事例を基に作
品を理解するための要件を整理することで問題点を明確にしている。

〔問4〕⁽³⁾ アートは、制作する人だけでなく、鑑賞する人にもその創造的
作業をうながす。とあるが、筆者がこのように述べたのはなぜか。

次のうちから最も適切なものを選び。

ア 作者が長い時間をかけてアートを完成させるように、見るヒトにとつ
てアートは、「何か」分らないものに対するイメージを、自分の知識
や記憶から長い時間をかけて探索して捉えるものだと考えたから。

イ 作者が自分の人生をアートに表現しているように、見るヒトにとつて
アートは、「何か」分らないもの一つ一つについて、作者の生い立ち
や趣味など調べたことを基に分析して捉えるものだと考えたから。

ウ 作者がひらめきによって独創的なアートを生み出すように、見るヒト
にとつてアートは、「何か」分らないものを分かろうと努力するもの
ではなく、出会った瞬間のひらめきによって捉えるものだと考えたから。

エ 作者がフィルターを通して見た世界をアートに表すように、見るヒト
にとつてアートは、自分の知識や記憶を探索し、「何か」分らないも
のを何らかのイメージなどと結び付けて捉えるものだと考えたから。

〔問5〕 国語の授業でこの文章を読んだ後、「新しい『何か』に出会うこ
と」というテーマで自分の意見を発表することになった。このとき
にあなたが話す言葉を具体的な体験や見聞も含めて二百字以内で
書け。なお、書き出しや改行の際の空欄、や。や。や」などもそれ
ぞれ字数に数えよ。

A

5

次のAは桜を題材にした和歌に関する対談の一部であり、Bは対談中
にでてくる「伊勢物語」の「渚院」の原文の一部である。また、あ
との
内の文章はBの現代語訳である。これらの文章を読んで、あ
との各問に答えよ。（*印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕が
ある。）

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾 申請中

(白洲正子、大岡信「桜を歌う詩人たち」による)

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

〔注〕

業平なりひら——平安時代の歌人。

宿りして春の山辺に寝たる夜は夢のうちにも花ぞ散りける

——旅先で宿をとって春の山辺に寝た夜は、夢の中にまで

昼間に見た桜の花が散っていたことよ。

春風の花を散らすと見る夢は覚めても胸の騒ぐなりけり

——春風が桜の花を吹き散らす夢は、目が覚めてもなおそ

の美しさに私の胸はかき乱されることよ。

(「新編 日本古典文学全集」による)

〔問1〕 梅の花から桜の花へ、いつてみれば政権交代があるようなんで

すね、古代から平安朝にかけての時期に。とあるが、ここでいう

「梅の花から桜の花へ」の「政権交代」について説明したものと
して最も適切ななのは、次のうちではどれか。

ア もともとは中国の文化を取り入れ梅の花を觀賞しながら歌を詠んで
いたが、時代の変遷の中で対象が桜の花に替わっていったということ。

イ かつて花の宴といえば梅の花であったが、ある時期から梅と桜の区
別がなくなり同じ花として扱われるようになっていったということ。

ウ 昔は大陸の影響から梅を歌にしたが、業平たちの時代には桜の歌が
歌人の実力を示すものと考えられるようになっていったということ。

エ 古くは梅を觀賞することが人々の楽しみであったが、時代が進む中
で桜を植えて觀賞することが人々の間に流行していったということ。

〔問2〕 大岡⁽²⁾さんの発言の中で引用されている紀貫之と西行の桜の歌の
特徴について説明したものとして最も適切なのは、次のうちでは
どれか。

ア 紀貫之の歌は桜の花が夢の中で舞う繊細な美しさを描いているが、

西行の歌は桜の花が夢の中で散る悲しみを独自の視点で描いている。

イ 紀貫之の歌からは作者のゆったりとした人柄が伝わってくるが、西

行の歌からは桜より自分が大切だという利己的な人柄が伝わってくる。

ウ 紀貫之の歌は桜が華やかに舞い散る様子を表現しているが、西行の

歌は桜の美しさに加えて美しさに心乱される心情をも表現している。

エ 紀貫之の歌には満開の桜を愛する心情が巧みに表現されているが、

西行の歌には貫之よりも強い愛情が素直な言葉で表現されている。

〔問3〕 白洲⁽³⁾さんの発言のこの対談における役割を説明したものとして

最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 西行の話に興味を抱きながらも紀貫之の具体例を尋ねることで貫之
と西行の共通点を聞き出そうとし、大岡さんの次の発言を促している。

イ 紀貫之と西行に関する大岡さんの発言を不思議に思い、桜を題材に
した歌の多さを尋ねることで問題の所在を明らかにしようとしている。

ウ 大岡さんが述べた西行の生き方を受け、新たな視点として紀貫之に
についても尋ねることで対談の内容を古今集全体の話題へと広げている。

エ 直前の大岡さんの発言に賛同しつつ紀貫之の桜の歌の多さを尋ねる
ことで、話題を西行から貫之の歌に戻して対談を深めようとしている。

〔問4〕 文中の——線を付けたア、エのうち、現代仮名遣いで書いた
場合と異なる書き表し方を含んでいるものを一つ選び、記号で答
えよ。

〔問5〕 鷹狩⁽⁴⁾はそう熱心にもしないで、もっぱら酒を飲んで、和歌を
詠むのに熱をいれていた。とあるが、Bの原文において「和歌を

詠むのに熱をいれていた」という部分に相当する箇所はどこか。

次のうちから最も適切なものを選び。

ア 常に率ておはしましけり

イ やまと歌にかかれりけり

ウ ことにおもしろし

エ みな歌よみけり